

チリ死者708人に

M6以上の余震8回

【コンセプトシオン(チリ中部)―浜砂雅一】米地質調査所(USGS)によると、南米チリでは、2月27日に起きたマグニチュード(M)8.8の大地震の後、1日朝(日本時間1日夜)までにM6.0以上の余震が計8回発生。津波が襲った沿岸部を中心に被害拡大の懸念が大きくなっている。

チリのバチェレ大統領は28日、少なくとも708人が死亡したと発表したが、被害の全容把握にはさらに時間がかかりそうだ。

閉鎖中の首都サンティアゴ国際空港にはペルーなどから旅客機が到着した。ただ、空港当局者は「ターミナルに燃料供給と電気系統の問題がある」と述べ、全面復旧には今後2日ほどかかる

見通しという。操業を一時停止していた国営銅公社の2銅山は1日、操業を再開した。△関連記事6・11面▽
 アムダが医師ら派遣

国際医療NGO「AMD A(アムダ)」(本部・岡山市)は1日、チリ地震の被災地で支援活動を行うため、医師ら2人を派遣すると発表した。岡山市在住の津曲兼司医師と、大阪市在住で元青年海外協力隊村落開発普及員の森田佳奈子調整員。